

1 9 9 5

授業概要

【シラバス】

専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

授業概要（シラバス）について

シラバス（Syllabus）は授業計画、教授細目とも訳されます。このシラバス集には、本年度に専攻科（保育専攻・福祉専攻）で開設される全ての授業科目について、その授業内容および授業の進め方が詳しく紹介されています。従来の講義要項より授業内容が詳しく説明されているので、学生の皆さんが必修科目を履修するときには、事前に授業内容を把握し、学習の準備をするのに役立つでしょう。また、選択科目を選ぶときには、皆さんが本当に学習を望む授業内容であるかどうかを判断する材料となるでしょう。

このシラバス集に記載された授業計画から授業の内容、進行を判断して計画的に学習目標を立ててください。また、授業進行の早い段階で不明な点を積極的に質問して、授業内容を正しく把握し、実り多い学習ができるよう、多いに活用してください。

目次（専攻科）

専攻科保育専攻

人間論	3
現代保育論	4
保育計画論	5
保育環境論	6
保育人間関係論	7
保育研究法	8
保育問題特講	9
あそび分析法	10・11
集団保育論	12
小児医学	13
神経生理学	14
生活習慣習得論	15
乳児保育論Ⅰ	(母子関係)	16
乳児保育論Ⅱ	(探索活動)	17
乳児保育論Ⅲ	(信号・言葉)	18
乳児保育論Ⅳ	(表象・想像)	19
幼児の保育構造論	20
保育内容研究Ⅰ	(自然認識)	21
保育内容研究Ⅱ	(社会認識)	22
保育内容研究Ⅲ	(表現①)	23
保育内容研究Ⅳ	(表現②)	24
保育内容研究Ⅴ	(表現③)	25
保育内容研究Ⅵ	(表現④)	26
保育内容研究Ⅶ	(総合活動)	27・28
統合保育論	29
精神薄弱治療論	30
運動療育論	31
言語療法論	32
自閉症治療論	33
情緒障害治療論	34
修了研究演習	35
専攻科実習	36
社会福祉制度政策論	37・38
障害福祉論	39
家族福祉論	40
社会福祉調査法	41
社会福祉援助方法論	42
社会福祉特別演習	43
社会福祉実習	44

専攻科福祉専攻

人間論	47
老人福祉論	48
リハビリテーション論	49
老人・障害者の心理	50
家政学概論・実習	51~53
介護概論	54
介護技術	55
障害形態別介護技術 (聴覚障害)	56
障害形態別介護技術 (肢体不自由・内部障害)	57
障害形態別介護技術 (視覚障害)	58・59
障害形態別介護技術 (老人)	60
実習指導	61
介護実習	62
介護福祉特講 (リハビリテーションワーク)	63
介護福祉特講 (老年医学)	64
修了研究演習	65
社会福祉制度政策論	66・67
障害福祉論	68
家族福祉論	69
社会福祉調査法	70
社会福祉援助方法論	71
社会福祉特別演習	72
社会福祉実習	73

保 育 專 攻

【授業科目名】 人間論	【担当者】 田中 未来
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 保育専攻・福祉専攻の学生にとって基礎となる人間観を、自ら構築するための手掛かりとなるように、人間の特性・基本的人権などを説き、教育や福祉によってどのように人間の自己実現を援助し、また基本的人権の保障をはかるかなどについて講義する。あわせて、感性の面から人間を理解するため、文学作品などをテーマとして討議する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 <参考書>『教育と福祉のための人間論』田中未来著（川島書店） ほか討議の資料として『兎の眼』灰谷健次郎著 『ファウスト』ゲーテ著などを使う。 、基本的にはプリントを用意する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間とは（講義およびディスカッション） 2) 人間の主体性・独自性・一回性 3) 人間の自由（本質的な自由・社会的な自由） 4) 人間の幸福 5) 人権（自由権と社会権） 6) 人間の自己実現・ 7) 人間のかかわり 自己と他者 8) 人間らしさ、 9) 教育とヒューマニズム 10) 福祉とヒューマニズム 11) 現代の人間とヒューマニズム （以上の内容を順不同に、教材や実習体験と合わせて講義し、またディスカッションを組み入れる）。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート</p>	

【授業科目名】 現代保育論

【担当者】 石井 哲夫

【開講期】 後期

【授業目標】

保育所保育を考えることから出発して、保育者の専門性を考える。その中心に保育者を目指す自分について考える機会を求めたい。

【テキスト・参考書】

石井編・著 「新・保育所保育指針—理解のために—」 ひかりのくに株式会社

授 業 計 画

- ①保育所保育指針の改訂からはじまった新時代の保育情勢を紹介しながら、目下進行している我国の社会福祉政策を考える機会を持つ。
- ②保育実践に求められている保育目標にそって保育内容について検討する機会を持つ。
- ③子どもの発達における価値観について考える機会を持つ。
- ④保育者としての要請事項についての認識を深める。

以上講義中心となるが、できれば時間毎に学生から感想を書いてもらい、一方的な話にならないようにしたい。

【評価方法】

感想文により評価する。

【授業科目名】 保育計画論	【担当者】 米山 千恵 渡辺 明
---------------	------------------

【開講期】 後期

【授業目標】
 子ども一人一人の発達特性をふまえ、日々の生活、遊びを核に、人間として生きる喜びを育む保育計画について考える。保育園における保育計画・指導計画について「保育所保育指針」に基づき学ぶと共に実際にはどのように計画を立て、保育をしているかを、幼稚園では幼児の計画を学ぶことになるので、保育園の場合3歳未満児を中心にひとりひとりの子どもを大切にする保育を進めるための、保育の計画のありようを具体的な事例に基づき考える。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

1986年(昭和61年)9月、「教育要領に関する調査研究協力者会議が提言した「幼稚園教育の在り方」には、幼稚園教育は「幼児の主体的な生活を中心に展開されるものであること」「環境による教育であること」「一人一人の発達特性および個人差に応じるものであること」「遊びを通しての総合的指導により行なわれるものであること」と改善の視点を明確に示しています。この視点は、その後、改訂された教育要領では、教育の基本をはいじめ文言が変わった一面がありますが、その内容、視点は「在り方」そのものを継承したものであると言っても過言ではありません。

そこで、この機会に、子どもたちの園生活、遊びから一人一人が人間として育つための保育計画について考えてみたいと思います。(具体的な事例による)

- (1) 子どもの立場にたち、同じ地平で考えると言うことは
- (2) 子どもとの信頼関係をどうつくっていくか
- (3) 子どもにとってふさわしい生活。主体的な生活を考え、どうつくるか
- (4) 子ども主体の保育計画は、 他

【評価方法】
 レポート

【授業科目名】 保育環境論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後期	
<p data-bbox="174 322 326 356">【授業目標】</p> <p data-bbox="221 394 1370 427">子ども、保育をとりまくもの=環境が、子どもの生活・育ちにどうかかわるかを考える。</p>	
<p data-bbox="174 546 445 580">【テキスト・参考書】</p> <p data-bbox="232 613 962 647">民秋 言・相馬和子共編『子どもと年中行事』相川書房</p>	
<p data-bbox="655 725 947 759">授 業 計 画</p>	
<p data-bbox="189 837 1417 904">保育環境はいろいろな角度から捉えられるが、本講では「子どもと年中行事」をテーマとする。</p> <ol data-bbox="194 949 633 1061" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="194 949 633 983">1. 生活における年中行事の意味 <li data-bbox="194 1016 633 1050">2. 保育における年中行事の意味 <p data-bbox="189 1095 1417 1207">の2つをまず考えることからはじめその後、各年中行事を保育にとり組むときの留意点などを検討する。</p> <p data-bbox="221 1240 1229 1274">また、保育カリキュラムに年中行事をプログラムとして編成する演習も行う。</p>	
<p data-bbox="174 1951 326 1984">【評価方法】</p> <p data-bbox="370 1984 545 2018">レポート提出</p>	

【授業科目名】 保育人間関係論

【担当者】 藤野 敬子

【開講期】 後期

【授業目標】

子どもの両親や地域の人々、保育者仲間と、共に育つためのよい保育のあり方を探り、相談のしかたなどについて具体的に学ぶ。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない。

参考書 発達59号集 幼児保育のカウンセリングマインド（池田節子）ほか。

授 業 計 画

子どもをとりまく環境の中でお世話となる人間関係は、とくに大きな影響を及ぼす。若い保育者が苦勞するお母さん、仲間や子どもの両親との人間関係である。

これらに加え、家庭や地域に育まれた保育が壊れていく現状である。

目から相手を見つめ、肯定的に受け入れ、信頼関係を築きながら、同時に自己理解を深めていくためのよい保育のあり方を探り、カウンセリングマインドについて学びながら相談や協力のしかたを会得していく。

1. 多様な考え方や保育者仲間が相互に学びながら、共に育つための保育
2. 子どもをよく見つけ出し、個々の育つ姿と両親と共にあたたかく見守っていく保育
3. 両親や地域の人々から学び、協力（なかさ 育ちあ）保育
4. 相手を受け入れ、相手が自分の支え道ついでを助ける相談のしかた
5. 人間関係についてクラスでの討議や資料を通じて相互に理解しあひ、自分のついでも再発見していく。

【評価方法】

レポート、平常の口頭レポート、討議など

【授業科目名】 保育研究法

【担当者】 黒田 瑛

【開講期】 前期

【授業目標】 一人ひとりが異なり、そして育つ子どもたちに責任をもつ保育者は、自ら保育に学び、その実践の中で育つことが期待される。日々の保育に課題意識をもって臨み、保育の理論と実践の中にテーマを求めて研究的に生き、働くものとなってほしいと願う。在学中に、また保育の場に立って、自ら研究の主題を選び、研究を実施し、これをまとめていく力を育てることを目標とする。

【テキスト・参考書】
テキスト：特に定めない。
参考書：田中未来編著「保育研究の視点と方法」川島書店
民秋 言編著「幼稚園・保育所での研究の進め方と実例」萌文書林

授 業 計 画

学生の関心や実例に即して以下の事項について話す。演習形式なので授業への学生の参加を歓迎する。

1. 保育研究の意義 -その特性と課題-
2. 保育研究の計画・手順と方法
 テーマの選定
 先行研究の調査と学習
 研究の準備と計画
 研究方法の検討と決定
 研究の方法
 文献研究、観察法、実験研究、
 質問紙調査法、実践研究、事例研究
 研究の実施
 資料の収集と考察
 結果のまとめ
 レポート、論文の作成
3. 研究のねらいと統計的処理

【評価方法】
① レポート ② 授業中での小テスト ③ 授業への参加

【授業科目名】 保育問題特講	【担当者】 八木 紘一郎 他
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この講座は、変容する現代社会の影響を受けて、今という時代の中に複雑化・多様化してトピック的にホットな現象として顕著にあらわれるてくる保育問題をテーマに、その背景や方策について多面的・多角的な保育理解を深めることを目的にしている。そのために本学以外の最先端の研究者を招いて一緒に講義をしていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各教員が印刷資料配布</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の子どもと保育問題の諸相 2. 現代社会のメディア環境の発展が子ども・家庭・地域・保育にもたらしている諸問題について 3. 園環境の都市化がもたらしている、子ども・保育への影響と諸問題 4. 現代社会にみられる少子化の進行がもたらしている子育てに関する諸問題 5. 現代社会の育児教育産業及び保育について経済状況の変容がもたらした問題 6. 今日の保育行政の制度を通して、保育が抱えている課題と若き保育者への期待 7. 現代社会の地域環境の変容がもたらした保育問題について 	
<p>【評価方法】</p> <p style="margin-left: 40px;">平常点</p>	

【授業科目名】 あそび分析法	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 前期	
【授業目標】 幼稚園に通う子どもたちの、幼稚園での自主的に取り組む活動における、その内容の構造について検討する目を養成することを目的とする。	
【テキスト・参考書】 随時提示する。 1994年度、佐々ゼミナールの白梅祭での活動のまとめを資料とする。	
授 業 計 画	
<p>1～5を考えたうえで、具体的な活動を読む、ことから分析へと繋げていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちの活動を“読む”ということ。 2. 活動の範囲、のとらえかた。 3. 総合的な営みとしての活動と、連続ということ。部分と全体、切れめと節目。 4. 表現系としての、活動。具体と抽象。虚と実。 5. 創造された“活動”生活と遊び。その構造を探る。心像を探る。 <p>実際編として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園での活動の観察を記録とする。VTRから、またはその場での、観察の後で、記録として採録する。 2. 採録された記録をもとに、1) 自分で検討する、2) 相互に検討する。 3. 記録が使えるものなのかどうかということの検討。 4. 採録上の留意事項。 5. VTRから再度の記録。 6. 5をもとに、その構造をさぐる。 7. 構造の特徴についてまとめたうえで、幼児における、活動の意味を探る 	
【評価方法】 平常点、課題、レポートで行う。	

【授業科目名】 あそび分析法	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者は子どもの遊びを生きいきと発展させ、子どもの人間的成長、発達を援助する役割を担うが、同時に遊びの指導の困難もしばしば指摘される。保育における遊びを念頭におき、遊びの理論・研究の検討を行う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考文献 授業時に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>以下の項目にそって授業を進める予定である。</p> <p>(1)遊びの理論と保育実践 遊びとは何か、遊びの意義等について遊び理論を概観し、保育実践と遊び理論の関連、遊びを研究する方法、視点を検討する。</p> <p>(2)子どもの遊びと発達 子どもの遊びの実際を取り上げ、子どもが何を面白がって遊ぶのか、遊びの発展のプロセス、大人の役割を考察する。</p> <p>①乳児の遊び ②ごっこ遊び ③ルール遊び</p>	
<p>【評価方法】 レポート</p>	

【授業科目名】 集団保育論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育は子ども一人ひとりの育ちをはかるものであるが、そのとき、集団のなかで生活してこそ意味がある、という面を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団とは何か — われわれ人間にとって集団がもつ意味を考える。 2. 保育における「集団」 — 保育生活で、子どもたちはどうして集団生活を送るのか。保育者はどうして「集団づくり」を課題とするかを考える。 3. 子どもの育ちを考える「集団づくり」 — 子どもが一人ひとり健やかに育つための集団づくりのポイントと留意点について学ぶ。 4. 集団づくり、集団活動のカリキュラム — 集団づくり、集団活動を保育カリキュラムに編成する（受講生各自のカリキュラム作成の演習）。 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート提出</p>	

【授業科目名】 小児医学	【担当者】 山登 淳伍
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 小児科において、何年に1度しか経験をする事のない病気よりも、ごく普通の子育ての場面で出会うような、さまざまな問題を取り上げて解決したい。また、学生にはあまり関心のない行政面の問題、たとえば母子保健法などについて、なんとか興味をもってもらうよう指導したい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 今村 栄一ほか編 「小児保健」 診断と治療社</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストに沿って授業を進めていくが、時に子どもについて最近のトピックスなどを織り込んで問題点などを学生と共に考えるつもりである。 なお、講義の際、簡単なワンポイント・クエスチョンを行い、前回の講義の内容をどの程度理解しているかチェックする。但し、期末試験とは関係ない。 およそ次の内容に従って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健の概念 2. 小児の成長と発達 3. 育児と生活指導 4. 小児の栄養 5. 小児と社会 6. 健康と異常 7. 小児の病気の特徴と処置 8. 新生児 9. 小児期に多い病気 10. 小児の保健指導と保健行政 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①期末試験は筆記試験 ②問1～問6 ----- 五者択一（各10点） ③問7 ----- 設問に対する小論文（40点） 	

【授業科目名】 神経生理学	【担当者】 工藤 行夫
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 人間の行動にとって、脳はどのような役割を果たしているのか。こころと脳とはどのような関係にあるのか。神経系、特に中枢神経系（脳）の基礎的な構造、機能を理解したうえで、精神医学的な知見も加え、脳の働きを共に考える時間としたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：養老孟司『唯脳論』（青土社）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>まず脳の構造と機能を理解するために、「脳死」の問題を解説する。続いて上記テキストを読みながら、各自が意見を述べあう形で授業を進める予定である。ちなみに、上記テキストは以下の内容からなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 唯脳論とはなにか 心身論と唯脳論 「もの」としての脳 計算機という脳の進化 位置を知る 脳は脳のことしか知らない デカルト・意識・睡眠 意識の役割 言語の発生 言語の周辺 時間 運動と目的論 脳と身体 エピローグ 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートによる評価</p>	

【授業科目名】 生活習慣習得論	【担当者】 伊志嶺 美津子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生活習慣とはなにか、それを単に機能や技能として習得していくものとしてではなく、子どもの人格や全体の発達とどのようにかかわるものなのか、といった観点から考え、実際の子どもの観察を通して論じ、理解を深めていくことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト： 近藤 弘他 「保育学要説」 建帛社 参考書： 榎田紋子他 「乳児の保育臨床学」 東京教科書出版 ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のテーマに沿って話しを進める。VTRや観察結果なども交えて、子どもの実際の姿・変化を捉えながら、保育上の配慮、起こりやすい問題などについて考えていきたい。項目の順番は、時間的都合により多少変わる可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活習慣とはなにか、生活習慣の発達の意義 2) 子どもの生活と生活習慣、子どもの観察計画 3) 睡眠習慣の発達、起こりやすい問題、保育上の配慮 4) 食事習慣の発達、起こりやすい問題、保育上の配慮 5) 排泄習慣の発達、起こりやすい問題、保育上の配慮 6) 子どもの観察記録について、中間報告・検討 7) 清潔にかんする習慣の発達、保育上の配慮 8) 着脱衣の習慣の発達、保育上の配慮 9) 観察結果報告・考察 10) レポートにむけて、まとめ 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの観察記録を含めたレポート 2) 平常点 	

【授業科目名】 乳児保育論Ⅰ（母子関係）	【担当者】 今泉 岳雄
【開講期】 前期	
【授業目標】 保育の実際の中で問題を整理し能動的に関わっていけるよう、多くの事例やディスカッションを交えて、母子関係を考えていく授業をしたい。	
参考書 マーシャルH. クラウス「母と子のきずな」（医学書院）、小島謙四郎「乳児期の母子関係」（医学書院）他。	
授 業 計 画	
<p>母子関係の成立過程には、生物学的な基盤の上に成り立った一般的な法則性が考えられるが、一方各自が抱える背景に母子関係が影響されていることも理解しなければならない。生まれた時の子供の状況、母親の精神状態や成熟度や価値観、母親を支える育児環境、夫婦や嫁姑関係など多くの要因が想定される。また、母子関係と対のものとして、父子関係も無視はできないであろう。思春期に生じる問題と関連づけて母子関係を考えるタイムスパンの長さも必要である。最後に、なぜ自分は保育を志すか、どういう保育行動をとりやすいかという自分についての理解を、各自の親子関係から把握することもしてみたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション、自己紹介（この授業で何を学びたいか？） (2) 母子を取り囲む現代の育児環境 (3) 母子関係の成立過程（感受期、エンタレイメント、アタッチメント他） (4) 母性とは（妊娠から出産に至る育児行動や初期の母子分離などから考える） (5) 母性的な行動を阻む要因（障害児、未熟児、夫婦関係など） (6) 母性的な行動を阻む要因（下の子の誕生、祖父母の偏愛など） (7) 乳幼児の発達と親子関係 (8) 母子分離体験と子供の反応 (9) 危機的な状況で乳幼児の示すサインと問題行動、スージング行動 (10) 探索行動、アタッチメント行動、母親代理機能、新奇場面の④因子から子供の行動を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (11) 子供にとっての父親の存在意味 (12) 思春期、成人の問題から振り返った親子関係 (13) 精神分析、交流分析の理論から幼児期体験を理解する (14) エゴグラムから自分について語り合う 	
【評価方法】 ①レポート提出②ディスカッションでの意見の評価	

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ（探索活動）	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>探索活動が活発になる乳児期後期の子どもの発達を、人との関係、物との関係から考察し、この時期の子どものとらえ方と保育への理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考文献 授業時に紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>およそ以下の項目を取り上げる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児後期の子どもの発達の特徴 2. 子どもの探索活動と保育 <ol style="list-style-type: none"> (1)探索活動のおもしろさ (2)探索活動の発展のプロセス (3)探索活動を通して育つもの (4)探索活動を発展させる大人の役割 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート</p>	

【授業科目名】 乳児保育論Ⅲ(信号・言葉)	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 前期	
【授業目標】 乳幼児とのかかわりにおいて発達助成者として位置づく、保育者に、両者のかかわりにおいて、目指される、活動の展開または阻害について要因を探ること、みる目の養成、技法の検討と、その習熟に置く。	
【テキスト・参考書】 発達助成論(私製)、その他随時提供する。	
授 業 計 画	
<p>演習をふまえて論を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の発達過程における、信号行動系、states 2. 母子関係に代表される、人間関係にみられる、信号行動系が、相互関係において、はたす。機能。 3. 関係把握において鍵となる、距離—信号行動系と要素。 4. 相互関係のしくみ；コミュニケーションとそのプロセス。 5. 意識化してとらえること。相手と私、私の信号行動系、相手の信号行動系。 6. とらえる私の視知覚能力、範囲。聴知覚能力、触知覚能力。(演習) 7. 観察力の自己点検・評価。他者に学ぶ、観察の視点。 8. 相互関係における、距離—信号行動系(演習) 9. 一人から数名、集団の関係の把握。(演習) 10. 日常生活、保育所、幼稚園などの保育現場でのさまざまな場面のコミュニケーション過程とその展開のさまについての検討。問題点についての見方。 11. 発達助成者に求められる内容—かかわりかたの技法。。 12. さまざまな子ども(たち)とのかかわりにおいて求められる内容。 13. 受講生自身のかかわりかたの傾向の分析(特質と問題点) 14. 瞬時の関係把握に求められる資質。問題解決への援助。 <p>対象乳幼児は障害児もふくめて検討する。</p>	
【評価方法】 出席点、平常点、ミニ課題、レポートによって行う。	

【授業科目名】 乳児保育論Ⅳ（表象・想像）	【担当者】 西本 絹子
【開講期】 後期	
【授業目標】 乳児から幼児前期にかけての象徴能力・表象能力の発達を捉えながら、この時期の子どもの姿やその遊びを見る力・理解する力を養うことを目標とする。	
【テキスト・参考書】 参考書：やまだようこ「ことばの前のことば」（新曜社） 心理科学研究会編「僕たちだって遊びたい」（ささら書房） 射場美恵子・加用美代子他編著「乳児の遊び指導」（ひとなる書房）その他	
授 業 計 画	
<p>初期言語発達と絡む象徴能力・表象能力の発達についての諸理論を紹介し、基本的な知識を得てもらうこと。乳幼児の遊びについて各自の経験をふりかえり自分の頭で考えてもらいながら、遊びについての見方や理解を深め、子どもとの関わりかたへの示唆を得ていくこと。この二点に沿って授業を進める。およそ以下の項目について講義を行う。</p> <p>A、＜理論を学ぶ＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、表象・象徴機能・想像力とは何か 2、初期言語発達と象徴遊びの発生 3、象徴遊びの発達 4、表象機能の発達 <p>B、＜遊びから考える・遊びを考える＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、みたて・つもり・ごっこ 2、描画 3、絵本を楽しむ 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1、筆記試験 2、レポート（短いものを随時、複数課す予定） 3、平常点（単なる出席点ではなく、授業への参加態度や発言内容を評価するもの） 	

【授業科目名】 幼児の保育構造論	【担当者】 岡本富郎
------------------	------------

【開講期】 前期

<p>【授業目標】</p> <p>保育の在るべき姿を保育の構造という視点で追求する。 自分なりに考えて、保育の在り方を主体的に探究することを授業の目標とする。</p>
--

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

1. 教育学と保育学。
2. 保育の現状。
3. 幼児期の人生における位置。
4. 子ども存在について。(子どもをどういう存在としてみるか)
5. 保育とは何か。
6. 保育構造とは何か。(構造とは何か)
7. 保育構造の探究。①(保育構造論の分析)
8. 保育構造の探究。②(保育構造論の分析)
9. 保育構造の探究。③(保育構造論の分析)
10. 保育構造論と保育者。
11. まとめ。

【評価方法】

【授業科目名】 保育内容研究 I (自然認識)	【担当者】 近藤正樹
-------------------------	------------

【開講期】 後期

【授業目標】
 幼児教育法の各論としての“認識”学がまとまっていないので、哲学・生理学・心理学・教育学を通じた学際教科とし、私流に表現すれば『input 教育法の概論, 自然現象の認識を育てるために』に相当する。本科の『環境 I (自然認識)』が具体的体験を中心に講じているのに対し、抽象度を高めるとともに境界領域として見直しをもてるように配慮している

【テキスト・参考書】
 テキスト：中沢和子著『新版 幼児の科学教育』 国土社刊
 参考書：植村忠夫著『知的生産の技術』 岩波新書, 岩波書店刊
 時実利彦著『目で見る脳』

授 業 計 画

幼児教育法各論をどう考えるか

1. 正しい認識を豊かに身につける教育法 (input の教育)
2. 自分自身の知的財産を豊かに効果的に表現できるようにする教育法 (output の教育)
3. 望ましい生活習慣を身につけ、おとなの社会に適応させる教育法 (adaptation の教育)
4. 自然認識・社会認識・文化認識 というサブ・ジャンルの特徴

“認識”とは何か

1. 教育学における Terminology (専門用語と生活用語)
2. 用語の正しい理解のしかた (外国語と比較のすすめ)

“認識”を理解するための生理学 ① 神経細胞

1. 環境のリセプター
2. 感覚器の構造と機能
3. 神経細胞の構造と機能

“認識”を理解するための生理学 ② 神経系と脳

4. 神経系と神経節・脳の関係
5. 脳の構造と機能の分化
6. 生理学的原因による認識不全の現象

“認識”を理解するための心理学

1. レンズ眼による倒立像と正立像とみなす適応
2. 残像と編集
3. 錯覚と先入観
4. イメージと記憶のファイリング
5. 夢とファイルと発想
6. “認識”のモデルとコンピューター

“思考”を考えるモデル

1. 中沢和子著『幼児の科学教育』の分析
2. 中沢和子氏の“思考”プロセスのモデル
3. “思考”モデルとコンピューターのアナロジー
4. コンピューター理論の現状と未来
5. “認識”と“思考”の教育学的総括
6. “知・情・意”の認識学的説明

【評価方法】
 試験 (題は公表しておく) を行う。

【授業科目名】 保育内容研究Ⅱ（社会認識）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育において子どもが「社会事象」を認識することの意味を考える。 さらに保育カリキュラムとして社会事象の認識を組み込む作業をする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>とくに使用しない。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが「社会事象」を「認識する」とはどういうことか。 2. 保育所保育指針における社会事象の認識。 3. 幼稚園教育要領における社会事象の認識。 4. 保育において子どもが認識すべき社会事象とは何か。 5. カリキュラムに社会事象の認識をどう組み込むか。 6. 受講生がそれぞれ社会事象の認識のカリキュラムを組み立てる。 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートにより採点</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅲ（表現①）	【担当者】 志 摩 弘
【開講期】 専攻科〈保育専攻〉（1年後期・前半）	
<p>【授業目標】</p> <p>「内容」をつたえるのに、いろいろな「表現手段・方法」がある。 この時間では、「素話」での表現（音声と身振り、表情のみ）と、「もの」たとえば「人形劇」「紙芝居」を使った場合の表現を、実際に演じてみて、いろいろな表現を考える。</p>	
【テキスト・参考書】 テキストは使用しない。	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、「素話」「人形劇」「紙芝居」等の表現特徴について講義をする。 ・「ことば」を考える。（標準語について。日本語のアクセントについて。イントネーションについて。他） ・「素話」を演じてみる。 ・「紙芝居」を演じてみる。 ・時間があれば「人形劇」を演じてみる。 <p style="text-align: center;">※限られた時間（前半6講時で終わる）を有効に使い、実技を中心に授業をすすめる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常授業での「実技」を中心に評価する。</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ（表現②）

【担当者】 八木 紘一郎

【開講期】 後期

【授業目標】

この講座では、幼児の造形表現活動の援助方法にしぼって演習的に学修する。造形表現活動の豊かな広がりを実現するために、できるだけHOWTO的且つ具体的に、展開するための環境条件と援助の在り方について考察する。

【テキスト・参考書】

テキストなし（保育現場の指導事例：VTRを中心に）

授 業 計 画

1. 造形表現活動のための「環境づくり・準備・片付け」について
2. 子どもの表現に対する指導者サイドの「受けとめ方と働きかけ」
3. 保育現場の実践事例（VTR）を検討材料にして、その援助指導の在り方について分析的に検討する。
（保育現場と提携して、具体的な資料－VTR・作品・－を活用する）

【評価方法】

平常点

【授業科目名】 保育内容研究Ⅴ（表現③）	【担当者】 小林 美実
【開講期】 後期	
【授業目標】 子どもは、生得的に音楽的なものに対する嗜好を表し、感情等を音楽的に表現する。そうした生得的な表現活動を、音楽としての要素、構造をもった自己表現へと成長し発達する様子、それを保育者として援助するために必要な知識、方法等を学ぶ。	
【テキスト・参考書】 テキストは使用しない。	
授 業 計 画	
<p>1・子ども（人間）と音楽表現 生活と音楽のかかわり。音楽の誕生、音楽とコミュニケーション、など。</p> <p>2・子どもの成長と音楽的発達の姿。 M子の成長の記録から、その姿をみる。</p> <p>3・子どもの音楽的発達を助けるもの。 環境の問題等。</p> <p>4・世界の音楽教育から学ぶ。 民族、或いは国家の教育に対する考え、施策。 日本の教育と音楽教育。</p> <p>5・同 上 エミール・ジャック・ダルクローズ ゾルターン・コダーイ カール・オルフ から学ぶもの。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅵ(表現④)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 後期	
【授業目標】 乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達および幼児の身体表現力の発達をふまえて、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その指導方法について学ぶ。特に言葉がけについて演習形式で詳しく学ぶ。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ①身体表現やリズムカルに身体を動かす等の幼児教育における現状と問題点 ②保育現場でみられる身体表現 ③身体表現の教育的意義 ④指導の実践例 <p>(2) 身体表現力の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児の発達にみられる身体表現 ②身体表現活動にみられる身体表現力の発達(3歳児、4歳児、5歳児) <p>(3) 身体表現の指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ねらい ②援助の基本的姿勢 ③援助の方法 ④言葉がけ <p>(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指導実践例における言葉がけの分析と整理 ②言葉がけのありかた 	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の一部、対話形式や演習形式を進める中、積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅶ（総合活動）	【担当者】 八木 絃一郎
【開講期】 後期 前半	
<p>【授業目標】</p> <p>教育活動の方法形態としての系統学習（教科別学習：保育では課題活動などと言う）とは別の「総合学習」（総合活動：単元活動とも言う）を扱い、その形態を採用した方が教育効果が高くなる内容・実践方法・形態に関する知識の修得を目標にする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストなし</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「総合活動」とは 総合的ということの違い 総合活動（学習）の位置付け（歴史的経緯と意義） 今日的意義 2. 「総合活動」の内容と種類 何を目的にしたときに、何と何をどのように「総合する」のか どんな種類の総合活動があるのか（事例研究） 3. 「総合活動」の計画と指導援助の仕方 事例を基に展開の仕方 計画の仕方 	
<p>【評価方法】 平常点</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅶ（総合活動）	【担当者】 前川 吉彦
【開講期】 後期 後半	
<p>【授業目標】</p> <p>授業科目「総合活動」の実践部分を担当する。総合活動の事例を紹介してその意義を考える。さらに、総合活動を「保育を総合的に捉える」こととの関係において考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書・安部富士男編著『保育実践に学ぶ指導計画』（国土社刊）</p>	
授 業 計 画	
<p>総合活動には二つのタイプがある。遊びや生活上の様々な出来事に端を発して総合的に発展していくものと保育計画に明確な位置をもつ課題としての総合活動とがある。いずれも子どもにとっての意味や必然性が問題となるとともに、総合的な発展を可能とする一定の分化・系列化された活動との関係が問題となる。</p> <p>だが、その基本において、前者は日々の遊びや活動の中にもその多様な意味と総合的で未分化な性格を捉える視点につながり、後者は保育を構造的に捉える視点につながる。今日いわれるところの「遊びを通しての総合的な指導」の考え方も十分に受けとめていかねばならないし、また、保育形態の多様な試みがなされる今日においてはなおさらに、保育を多様かつ構造的に捉える視点が問題となる。このように、保育者は、個々の遊びや活動との出会いから保育の構造的把握までを視野にいれて、保育を構想することが求められている。そのためには、子どもの成長を具体的に総合的に捉えることに立ち返って保育の構造を捉える努力が重要になる。そのなかで総合活動の意義と位置づけを明らかにしていかなければならない。</p> <p>このような問題意識をもとに、視覚的にも理解を深める工夫をしながら保育実践の分析と考察を行う。保育現場への関心に応える授業にしたい。</p> <p>①総合活動の事例について ②「保育を総合的に捉えるということについて」 ③「ある子どもの成長を追って」 －子どもの育ちを通して保育の構造と総合活動の位置を考える。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと授業への姿勢等総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 統合保育論	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 健全児と障害児がともに生活することの意義を理解するとともに統合保育における現状と課題を明らかにし、実践に関わる総合的な視点と子ども理解・援助の視点について実践的な追求をめざす。	
【テキスト・参考書】 テキスト・参考書 授業のなかで適宜提示する。	
授 業 計 画	
<p>統合保育のあり方および現在の幼稚園・保育所における障害児の受け入れ、クラス集団のあり方など、具体的な問題を通して考える。理念としてはノーマライゼーション思想に基づいた保育観の検討、制度では実施の現状と課題の把握、実践では発達保障の問題と社会参加の視点から子ども理解と援助法について、さらに地域の療育ネットワークと保育所の役割や家族への地域支援からも学習する。</p> <p>前期は、VTR観察、実践報告や研究報告を取り入れながら、実践課題を明確にしそれに対する実践的アプローチについても具体的に検討する。</p> <p>後期には、統合保育を実践している保育所、幼稚園行われている実践を実際に（あるいはVTR）観察し、観察記録をまとめながら前期に学んだ視点にそって分析し討論を進める。できる限り直接体験を通して実践性をともなった学習としたい。</p> <p>およそ、以下の項目にそって進める。</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> ① ノーマライゼーションの思想とインテグレーションの理解 ② 障害の理解－知的障害、自閉症、言語障害、重複障害など ③ 我が国における制度・政策の展開と現状 ④ 実践体制の要件－受け入れ、チームワーク、園内の条件整備など ⑤ 実践的課題の存在－実践報告、研究報告にみる課題 ⑥ 子どもの理解と援助1－個人的援助、発達援助のあり方 ⑦ 子どもの理解と援助2－集団的援助、健全児間関係のあり方 ⑧ 家族への支援、地域・関連施設機関との連携 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 統合保育における障害児の発達評価と発達課題の分析 <ol style="list-style-type: none"> －1 保育所あるいはVTR観察による ② －2 観察記録の報告と討論 ③ 統合保育における健全児と障害児の相互交渉の分析 <ol style="list-style-type: none"> －1 保育所あるいはVTR観察による ④ －2 観察記録の報告と討論 ⑤ 統合保育における今後の課題について 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 平常授業の中で実践・研究文献を報告し、適宜討論を行う。 ② 統合保育実践の観察や分析のレポートをまとめる。 	

【授業科目名】 精神薄弱治療論	【担当者】 山田 寿子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神発達遅滞児の保育・指導方法の基礎となる知識及び基本的な考え方を獲得することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>現在、多数の保育機関で統合保育が行われている。障害児を健常児とともに保育することの意義や重要性は理解されつつあるが、現場の保育者のためらい・苦労は未だ大きい。また、障害児を健常児と混合して保育するだけで、障害に合った適切な保育がなされなければ保育の効果はない。本講義では、精神発達遅滞を中心に障害児及び障害のとらえ方を整理し、精神発達遅滞児の保育・指導方法について具体的に述べる。</p> <p>授業は以下の項目にそって進める。</p> <p>I. 「精神薄弱」の用語と概念</p> <p>II. 「精神発達遅滞」の原因と分類</p> <p>III. 「精神発達遅滞児」の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> -1 障害を正しく理解する必要性 -2 障害の診断方法 -3 運動発達(姿勢・粗大運動) -4 対人関係・社会性・基本的習慣の発達の側面 -5 言語理解・表出の発達の側面 <p>IV. 「精神発達遅滞児」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> -1 早期指導と統合保育について -2 指導法について -3 生活指導(食餌指導) 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 運動療育論	【担当者】 南雲 直二
【開講期】 前期	
【授業目標】 1. 肢体不自由児・者の臨床像、経過、および長期的帰結を理解する。 2. 各種運動療法とその有効性について理解する。	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで示す。	
授 業 計 画	
<p>(1) 「障害」の正しい理解がなによりも大切なので、WHOのテキストを参考にし、「障害」の構造を理解する。</p> <p>(2) 教員や保健の現場で、比較的出合いやすい肢体不自由児の診断・臨床像・経過（発達）・帰結について述べる。 イ. 脳性マヒ ロ. 進行性筋ジストロフィー ハ. その他</p> <p>(3) 運動療法の理論と有効性 イ. Vojta法 ロ. Bobathe法 ハ. その他</p>	
【評価方法】 テストの成績により評価する。	

【授業科目名】 言語療法論	【担当者】 高平 嘉明
【開講期】 後期	
【授業目標】 ことば、コミュニケーション（4つの子）、行動、こころの関係について学び、ことばの問題が生命の働きとしてたいへん深いものを持っていることを実習等をとおして学習する。	
【テキスト・参考書】 「保育者養成のための言語」（最新版） 白梅学園短期大学保育言語研究室	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ことば、コミュニケーション、行動、こころの関係について 2. こどもの見方、とらえ方（基本編） <ol style="list-style-type: none"> ①観察、検査 ②面接、調査 ③統合、考察 3. コミュニケーションに問題をもつ子どもの見方、とらえ方 <ul style="list-style-type: none"> ことばの遅れ、構音障害 どもり 難聴 その他（LD児、かんもく児等） 4. かかわり方（治療、教育） 5. ケース研究 	
【評価方法】 授業およびテスト	

【授業科目名】 自閉症治療論	【担当者】 伊藤 英夫
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自閉症とは何か、自閉症児とはどんな子どもたちかを理解し、将来、自閉症児の担任になったときに、どんな保育をすればよいかについて考える。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>現在、自閉症児は脳を基本とする中枢神経系の障害に基づく、発達障害と考えられているが、詳しい原因はまだ確定されていない。したがって、自閉症の治療教育の方法もさまざまである。授業では、自閉症の正しい理解をもとに、最新の治療教育の方法について、ビデオを使いながら紹介する。</p> <p>①オリエンテーション： ②「自閉症」とは？ 自閉症の診断基準 ③早期スクリーニングシステム ④早期療育システム ⑤障害児通園施設での治療教育と幼稚園での統合保育 ⑥自閉症児の母子関係 ⑦自閉症児のコミュニケーション指導 ⑧言葉のない自閉症児の言語指導プログラム ⑨アメリカの自閉症児・者の療育プログラム ⑩自分が自閉症児の担任になったら...</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 情緒障害治療論	【担当者】 伊藤 英夫
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>情緒障害とは何か、情緒障害児とはどんな子どもたちかを理解し、将来、情緒障害児の担任になったときに、どんな保育をすればよいかについて考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>岡堂哲雄（編）『臨床心理学』（日本文化科学社）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>一口に情緒障害といっても、原因、種類、症状、治療的アプローチもさまざまなものがある。授業では、情緒障害全般について概観し、特に幼児期におこりやすいものに焦点を当て、治療のプロセスについて具体的な事例を紹介しながら検討する。また、カウンセリングの方法やあり方についても触れる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②「情緒障害」とは？ ③乳児期の情緒障害 ④幼児期前期の情緒障害 ⑤幼児期後期の情緒障害 ⑥学童期の情緒障害 いじめ ⑦学童期の情緒障害 不登校 ⑧心理アセスメントの技法 ⑨心理カウンセリングの技法 ⑩自分が情緒障害児の担任になったら... 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試みる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月入学後、オリエンテーションを受けた後、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定（教員1人当たり5～10名の学生が配属） 3. 担当教員の指導を受けながら研究作業をすすめる。 4. 11月に予定の修研中間発表会で報告する。 5. 1月修研提出する。 6. 2月修研発表会で、研究成果を報告する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>各自提出の修研（論文）により評価する。</p>	

【授業科目名】 専攻科実習	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 より豊かな保育実践をとほなにか、講義や演習で学んだ知識と技術を有機的に関連させ理論と実践の統合をはかり、実践性を身につけることを目標とする。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>実習は前期実習と後期実習を行う。前期実習は毎週水曜日に行い、後期実習は11月に2週間の集中実習を行う。</p> <p>実習園は、専攻するコース（乳児・幼児・障害児）、または修了研究テーマと関連させて、保育所・乳児院・幼稚園・障害児通園施設等の中から選ぶ。</p> <p>前期実習は主に、保育園における子どもの生活構造について、あるいは保育実践のカリキュラム構造について、子どものあそびの発達について、仲間関係の成立についてなど、平行して進められる講義・演習の内容と関連させて、実践を分析的にとらえる実習を行う。</p> <p>後期実習は主に、前期の実習内容をさらに進め実践を作り出すための実践評価や実践準備に取り組む。修了研究のテーマによってはより具体的な観察視点をもって実習を行うことになる。</p> <p>本科の実習と異なり、より豊かな保育実践とはなにか、あるいはそれを作り出すためにどのような視点と準備が必要かを追求する。このため、各自の重点テーマについては学生自身が設定して実習の成果をあげるよう、各自の主体性が求められる。</p>	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 実習テーマに即した観察・分析を実習記録にまとめ、提出する。 ② 実習のまとめとして反省会あるいはテーマ検討会を行い、実習テーマに即して各自の観察・分析を報告し合いながら検討を深める。 	

【授業科目名】 社会福祉制度 政策論

【担当者】都留 民子

【開講期】 前期

【授業目標】

社会福祉の政策と制度を学ぶ重要性を理解させる。そのなかで、社会福祉制度・政策の独自の性格と役割を、関連領域（特に雇用、労働政策）との絡みで把む。

【テキスト・参考書】

「厚生指標（臨時増刊号）
国民の福祉の動向 1994年版」（厚生統計協会）

授 業 計 画

わが国の社会福祉の制度と政策をイギリスとフランスの社会福祉の比較でまず捉らえて、その特徴を明らかにしていく。次に今日のわが国の国民生活は実態に基づき、制度の有効性と問題点を学習していく。ただし、社会福祉は広い概念であること＝生活問題対策として理解をすすめていく。したがって社会福祉諸サービスにとどまらず、年金、諸手当、医療保障なども含む。わが国の分野授業方法は、当初の理論学習の際は教員の講義を中心とするが、わが国の分野別の制度・政策については学生の自主的な学習に基づく準演習方式で行う。

- 1部 社会福祉のアドミニストレーション
 - 1章 イギリスとフランスの事例
 - 1節 イギリスのソーシャル・ポリシー
 - 2節 フランスのプロテクション・ソーシャル
 - 2章 日本の社会福祉政策・制度・行政
 - 1節 戦前の社会政策と社会事業
 - 2節 戦後の社会保障と社会福祉
- 2部 日本の社会福祉の諸制度と体系
 - 1章 社会保障と社会福祉の法体系
 - 1節 社会福祉諸法における公的責任
 - 2節 所得保障諸制度
年金、公的扶助—生活保護制度、社会手当
 - 2章 社会福祉の各分野の特徴
 - 1節 「家族政策」と社会福祉
児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当
児童福祉と母子福祉
 - 2節 障害者福祉政策・制度
 - 3節 高齢者福祉政策・制度
 - 4節 今日の生活問題と貧困
最低限生活保障
 - 3章 社会福祉政策・制度とソーシャルワーク

【評価方法】

学年末レポート

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 後期前半	
【授業目標】 児童福祉、障害者福祉、老人福祉、公的扶助などを巡る諸制度、諸政策の歴史の変遷と現在そしてこれからどう変化していこうとしているかを、住民（児童、障害者、老人その他一般住民）の生活との関連で概括します。そして、制度政策を考える視点を生存権保障に置き、憲法、社会福祉諸法、各種憲章、権利条約等をおして自ら築き上げられるよう、グループディスカッションを多く取り入れ学びます。	
【テキスト・参考書】 授業開始時に示します。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦前（戦中）の制度・政策 2. 戦後に組み立てられた社会福祉制度・政策とその時代的背景 3. 現在の社会福祉制度・政策とそこに至る経過 4. これからの社会福祉制度・政策の方向 5. 社会福祉制度・政策はどうあったらよいかを考察する 	
【評価方法】 授業内容をヒントとしたレポートの提出を数回求めます。出席は重視します。その総合点で評価したいと思います。	

【授業科目名】 障害福祉論	【担当者】 尾島 豊
【開講期】 後期	
【授業目標】 障害者問題の特質とその背景、障害の概念、障害者福祉に関わる法律や制度の概要など、専門援助者として関わる上での基本的な考え方や知識を学び、また現代の障害者問題に対する問題意識を深め、またノーマリゼーション論の理解を深めることを目的とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：手塚直樹・加藤博臣編 『障害者福祉論』ミネルヴァ書房 参考書： 江草安彦『ノーマリゼーションへの道』全社協 砂原茂一著『リハビリテーション』岩波新書	
授 業 計 画	
<p>前半は、障害者福祉に関する制度の概要の紹介が中心となる。身体障害者、知的障害者に対する福祉制度、関連する制度の概要を理解することが目的となる。後半は、現状の障害者問題に対する知識と考え方を深めることを目的とする。福祉の領域におけるノーマリゼーション論を、広く社会の動きとの関連の中で捉え、現代において広く問題となっている慢性疾病と障害者問題、高齢化と障害者問題、教育における障害児の統合教育などがテーマとなる。</p> <p>序 オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念について 2 障害者福祉の法律と制度 3 障害者問題を考える視点 	
【評価方法】 講義の内容の理解を中心にした筆記試験	

【授業科目名】 家族福祉論	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 後期	
【授業目標】 ① 家族福祉の基本的枠組み、諸理論を学ぶ ② 各分野の家族福祉の具体的課題を深める ③ わが国における家族福祉の動向について学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで紹介する	
授 業 計 画	
(1) 家族福祉論で考えたいこと (2) 「女らしさ」「男らしさ」からの解放 (3) いま世界と日本の家族に何が起きているのか (4) 家族福祉の視点とは何か－家族福祉の概念 (5) 高齢者問題からみた家族福祉－福祉サービスの内容 (6) 障害児問題からみた家族福祉－スティグマ観の検討 (7) 精神障害者問題からみた家族福祉 (8) デイサービス 福祉制度改革はどうすすめられるべきか (9) デイサービス 介護の担い手は女性が適しているか否か (10) 地域問題からみた家族福祉 (11) 援助方法からみた家族問題 (12) 家族政策からみた家族問題 (13) 現代の社会福祉政策動向と家族福祉の展望	
【評価方法】 ① レポート提出 ② 授業への出席状況	

【授業科目】	社会福祉調査法	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	専攻科共通 後期前半		
<p data-bbox="185 349 346 387">【授業目標】</p> <p data-bbox="197 398 796 436">社会福祉調査は、社会調査の一種であり、</p> <ol data-bbox="174 448 1350 678" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="174 448 1350 577">1. 住民（児童、障害者、老人および住民全般）の生活実態と、改善、解決を求められる福祉課題・生活課題等を明らかにし、社会福祉制度、サービスに結びつけていく <li data-bbox="174 589 890 678">2. 各種社会福祉サービスの効果測定や分析を行うことを主な目的としています。 <p data-bbox="166 689 1334 819">本講では、まず、既に公にされている調査報告書を解読し、生活課題、福祉課題を明確にする作業から、社会福祉調査の大切さを学び、その技法についても論究していきたいと思ひます。</p>			
授 業 計 画			
<ol data-bbox="205 976 1329 1256" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="205 976 1329 1066">1. 育児・子育て、保育調査、高齢者・障害者の生活実態調査報告書を読み、グループディスカッションをとおして福祉課題、生活課題を探る。 <li data-bbox="205 1077 1329 1167">2. 調査結果から明らかになった福祉ニーズとの関係で既存の福祉サービスを検証する <li data-bbox="205 1178 1329 1256">3. 調査法について学び、グループ毎に分野ごとに調査項目を立て、実際に簡単な調査実習を試み、結果を分析する 			
<p data-bbox="185 1312 279 1350">【評価】</p> <p data-bbox="228 1361 1313 1400">学年末試験と日常のレポートを総合して評価します。 出席は重視します。</p>			

【授業科目名】 社会福祉援助方法論	【担当者】 尾島 豊
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉に固有な方法としてのソーシャルワーク実践の専門性（価値・知識・技術）のあり方を学ぶ。職業としての社会福祉援助の意味、援助関係の形成と援助過程を展開する上で必要な基礎的な概念を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武井・春見・深澤共著『ケースワーク・グループワーク』光生館 参考書　：モフェット著『ケースワーク入門』川島書店 バーステック著『ケースワークの原則』誠信書房</p>	
授 業 計 画	
<p>この講義では、保育・介護福祉の職業に就く者として必要な社会福祉の方法論の基礎を改めて学ぶ。保育にも介護福祉にも共通する対人援助活動における基本的な考え方に関するテーマが中心となる。どのように現場で学校や書物で得た知識を活用し、社会的価値を実現させていくか、あるいは専門的な援助を通じて自らも成長できるという意味で、対人援助という職業を見直すきっかけになればと思う。</p> <p>序　　オリエンテーション</p> <p>1　　社会福祉における方法・技術　－対人援助活動の基礎－</p> <p>2　　社会福祉の目標と価値</p> <p>3　　社会福祉の専門性</p> <p>4　　ソーシャルケースワークの基礎</p> <p>5　　事例研究－ニーズの把握・情報収集の方法と援助過程の展開－</p> <p>6　　ソーシャルワーク論の歴史と理論</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">講義の内容の理解を中心にした筆記試験</p>	

【授業科目】	社会福祉特別演習	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	専攻科共通 前期		
【授業目標】	<p>1年間、社会福祉を学ぶ上で最小限必要な知識と考え方を学ぶことを目的とします。</p> <p>同時に「社会福祉実習」の事前準備及び事後の整理に結びつくよう心がけます。</p> <p>実習で 何を、どう学び、今後の仕事・研究にどう発展させていくかを各人が自ら考えていく力を付けることを目標に進めたいと思います。さらには、後期の「社会福祉制度政策論」の授業に結びつけられるよう考えていきたいと思っています。</p>		
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 住民の暮らしと社会福祉 2. 社会福祉の各分野別にみる制度・サービス 3. 社会福祉援助実践とはどうあったらよいか 4. 社会福祉実習で何をどう学ぶか 5. 社会福祉実習に臨むにあたっての事前学習 6. 社会福祉実習から何をどう学び、どう発展させていったらよいか、自らの課題を探る 			
【評価】	<p>レポート（授業に関するもの及び実習準備・実習まとめレポート）、出席は重視します。</p> <p>その総合点で評価したいと思っています。</p>		

【授業科目】 社会福祉実習	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この実習は「社会福祉主事任用資格」取得希望者を対象に福祉事務所や児童相談所などの社会福祉専門行政機関、老人ホームや精神薄弱者援護施設などの社会福祉施設（原則として児童福祉施設を除く）で行うものとします。実習をとおして、施設利用者の生活実態と機関・施設の役割を理解し、考える力をつくと共に、援助技術について学ぶ。</p>	
授 業 計 画	
<p>配属実習は7月下旬から8月上旬にかけての12日間を標準として実施する。実習の事前・事後指導は、「社会福祉特別演習」の時間に実施する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習機関からの評価を基礎に、授業への積極的参加度、実習への取り組み方、実習のまとめ等を総合的に判断する。</p>	

福 祉 専 攻

【授業科目名】 人間論	【担当者】 田中 未来
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 保育専攻・福祉専攻の学生にとって基礎となる人間観を、自ら構築するための手掛かりとなるように、人間の特性・基本的人権などを説き、教育や福祉によってどのように人間の自己実現を援助し、また基本的人権の保障をはかるかなどについて講義する。あわせて、感性の面から人間を理解するため、文学作品などをテーマとして討議する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 <参考書>『教育と福祉のための人間論』田中未来著（川島書店） ほかに討議の資料として『鬼の眼』灰谷健次郎著 『ファウスト』ゲーテ著などを使う。 _____、基本的にはプリントを用意する。_____</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間とは（講義およびディスカッション） 2) 人間の主体性・独自性・一回性 3) 人間の自由（本質的な自由・社会的な自由） 4) 人間の幸福 5) 人権（自由権と社会権） 6) 人間の自己実現・ 7) 人間のかかわり 自己と他者 8) 人間らしさ、 9) 教育とヒューマニズム 10) 福祉とヒューマニズム 11) 現代の人間とヒューマニズム （以上の内容を順不同に、教材や実習体験と合わせて講義し、またディスカッションを組み入れる）。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート</p>	

【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科 福祉専攻 前期	
【授業目標】 全体授業目標としては、老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを追求します。 1. 老人福祉の社会的背景について学びます。 2. 老人福祉の理念・目的を学びます。 3. 高齢者のおかれている状況及び生活実態について学びます。 4. 現行の老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学びます。 5. 民間シルバーサービスの現状について学びます。 6. 老人福祉サービスと関連行政の関係について理解します。	
【テキスト、参考図書】 プリント及び教科書をもとに授業を進めます。参考図書は授業の開始段階で数冊提示します。	
授 業 計 画	
1. 現代社会と高齢者問題について考えます。 2. 高齢者の生活を事例を通して学びます。 3. 老人福祉制度・サービスについて学びます。 4. 在宅福祉サービスの理念と体系について学びます。 5. 施設福祉サービスの理念と体系と内容について学びます。 6. 民間シルバーサービスの現状と今後の展望について学びます。 7. 老人保健サービスについて学びます。 8. 老人福祉・保健サービスと財政問題について学びます。 9. 老人福祉を巡る様々な施策、ゴールドプラン、老人保健福祉計画などについても触れ、生存権保障とは何かを基本に、高齢者福祉とは如何に存在したらよいかをまとめます。	
【評価】 授業を通して、適宜、感想文及びレポートを求めて評価とします。出席は重視します。その総合点で評価したいと思います。	

【授業科目名】 リハビリテーション論	【担当者】 菊池 恵美子
【開講期】 後期	
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。 2. 障害の分類とその意味、必要な援助法を理解する。 3. リハビリテーションに関わる専門職種の役割と機能を理解する。 4. 対象者の疾患特性に応じた介護の知識と技法を学ぶ。 5. 介護に必要な福祉用具の種類と適応を学ぶ。 	
【テキスト・参考書】 <p style="text-align: center;">松村 秩編, 生活リハビリテーションマニュアル, 中央法規, 1992</p>	
授 業 計 画	
<p>授業目標に対応したおおよその授業計画を以下に示す（講義は2コマ連続）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（リハビリテーションの意味・歴史・障害とは？） 2. リハビリテーションの体系と方法（関連機関・関連職種の機能と役割） 3. リハビリテーションの分野で使われている評価法 4. 日常生活活動と介助法（実技） 5. 障害の診かた（片まひ・パーキンソン他） 6. 高齢者の心身機能の特性と体力評価（実技） 7. 介護に必要な福祉用具の種類と使用方法 8. まとめとテスト <p style="text-align: center;">（毎回生活リハビリテーションと介護に関するVTRを使用する）</p>	
【評価方法】 <p>評価：筆記試験 80%, レポート20%</p> <p>出席：学則に従う</p>	

【授業科目名】 老人・障害者の心理	【担当者】 上野 米子		
【開講期】 後期			
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1 老化や障害が与える心理的影響について学ぶ。 2 老人の心理的特性について理解する。 3 各種障害者の心理的特性について理解する。 4 クライエント（老人や障害者）への様々な援助をケースを通して学ぶ 			
【テキスト・参考書】 テキスト・・・使用しない 参考書・・・「老人・障害者の心理」介護福祉士養成講座（中央法規）その他			
授 業 計 画			
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 老人心理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老化とは (2) 老化説 2 老人の心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年期の知能 (2) 老人の記憶 (3) 老人の人格 (4) 老年期の適応 3 老年期の異常心理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神における異常とは何か (2) 異常の背景となる要因 (3) どのような異常症状が現れるか (4) 主な精神異常とその対応 4 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害と障害者 (2) 障害の及ぼす心理的影響 (3) 障害の受容 (4) 適応と適応機制 5 障害の時期・程度・種類別心理特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害発生の時期別・程度別心理的特性 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> (2) 障害の種類別心理的特性 6 老人・障害者への対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的態度 (2) リハビリテーション (3) レクリエーション (4) その他 </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1 老人心理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老化とは (2) 老化説 2 老人の心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年期の知能 (2) 老人の記憶 (3) 老人の人格 (4) 老年期の適応 3 老年期の異常心理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神における異常とは何か (2) 異常の背景となる要因 (3) どのような異常症状が現れるか (4) 主な精神異常とその対応 4 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害と障害者 (2) 障害の及ぼす心理的影響 (3) 障害の受容 (4) 適応と適応機制 5 障害の時期・程度・種類別心理特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害発生の時期別・程度別心理的特性 	<ol style="list-style-type: none"> (2) 障害の種類別心理的特性 6 老人・障害者への対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的態度 (2) リハビリテーション (3) レクリエーション (4) その他
<ol style="list-style-type: none"> 1 老人心理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老化とは (2) 老化説 2 老人の心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年期の知能 (2) 老人の記憶 (3) 老人の人格 (4) 老年期の適応 3 老年期の異常心理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精神における異常とは何か (2) 異常の背景となる要因 (3) どのような異常症状が現れるか (4) 主な精神異常とその対応 4 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害と障害者 (2) 障害の及ぼす心理的影響 (3) 障害の受容 (4) 適応と適応機制 5 障害の時期・程度・種類別心理特性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害発生の時期別・程度別心理的特性 	<ol style="list-style-type: none"> (2) 障害の種類別心理的特性 6 老人・障害者への対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的態度 (2) リハビリテーション (3) レクリエーション (4) その他 		
【評価方法】 筆記試験 グループ討議等への参加姿勢			

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習（経営管理・住生活）

【担当者】 佐藤 美千子

【開講期】 前期

【授業目標】

家庭生活（生命および人間活動力再生の営み）の経営管理 および住生活領域についての基礎的事項を学ぶ。家事・介護援助のあり方と社会的役割を考へる。特に、援助の実践力を培う。

【テキスト・参考書】

テキスト：宮崎礼子編『家政学概論』誠信書房（予定）

参考書：日本住宅会議『住宅憲章』岩波ブックレット No. 123

授 業 計 画

自分を育て、家庭を営み、地域や職場で確実な歩みを続けるためには、家庭生活の営みと、社会との関連が捉えて理解できる力を持つことが必要である。日本の高齢化は、生活のし方や価値観の大きな変化と重なって起きている。したがって、家事・介護援助に携わる者は、家族の多様なあり方への理解と、生活の様式や家族観が世代的にも地域的にも就業形態によっても異なることへの洞察力を持つことが、きわめて重要となる。

そこで、家庭生活と住環境について、社会的視点と生活史的視点をもつ把握できるように配慮し、家事・介護援助者としての実践力を培う一助としたい。

授業が取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。

1. 家庭の本質、家族・家庭生活の現状
2. 生活周期・家族周期の変化と生活設計の課題
3. 生活時間、家事・介護労働、家事・介護援助
4. 経済生活、高齢者・障害者の消費者問題
5. 住宅の要件
6. 住宅改善の視点と効果
7. 住宅の安全対策

なお、実習では、生活時間調査や住宅の安全チェックなどを行う。

【評価方法】

- ・学期末のレポート
- ・平常点 および 授業時の感想文（不定期）

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習（衣生活）	【担当者】 山本 良子
【開講期】 前期	
【授業目標】 生活基盤をなす、家政学の概要を衣生活の分野について、必要な基礎的知識を概説し、介護者として老人や障害者衣料の実践の場に役立てられるように問題点を考える。	
【テキスト・参考書】 テキスト：中島満喜子・駒津君代・土橋とき子共著 寮母・ヘルパーの家政学①被服（全国社会福祉協議会）	
授 業 計 画	
<p>被服生活について、具体的に下記の項目について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被服の役割と機能、 2) 被服の素材と品質表示、 3) 被服と皮膚衛生、 4) 被服の選択と管理（寝具類を含む）、 5) 老人、障害者と被服、 <p>また実習では講義内容の理解を深めるための技能を実習し、家庭生活に必要な実践的経営、管理能力を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 被服素材の特徴および鑑別の実験、 2) 被服管理実習（洗濯、漂白、しみ抜き、のり付け、仕上げ、保管その他） 3) 老人、障害者のための被服のデザイン・構成および着脱の工夫、 	
【評価方法】 ①筆記試験 ②実習レポート	

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 北郁子
【開講期】 後期	
【授業目標】 出生と同時に新生児は哺乳を通して生活の第一歩を始めます。そして乳児期、幼児期、青年期、壮年期、老年期と一生をよよく人肉として健康に生きるためには、まず食生活が重要で、ここでは特に老人・障害者の食生活のあり方を中心に理論と実習を通して、その栄養特性、食事内容、食べかた、介護のあり方の理解を深めることを目標とします。	
【テキスト・参考書】 栄養・調理 改訂介護福祉養成講座9巻 中央法規出版K.K. 福祉士養成講座編集委員の編	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と健康 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体の機能と栄養素の関係 (2) 日本人の食生活の変化による疾病 2. 栄養素の機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 糖質 (2) 脂質 (3) たんぱく質 (4) ビタミン (5) 無機質 (6) 水 3. 消化吸収 4. 高齢者 障害者の食生活 <ol style="list-style-type: none"> (1) 加齢と栄養所要量 (2) 食品構成 (3) 高齢者の食事と調理 5. 高齢者の疾病予防のための食事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食欲を高めるための工夫 (2) 咀嚼しにくい場合の食事内容と介助技術 (3) 嚥下困難な場合の食事内容と介助技術 (4) 成人病予防のための食事 6. 高齢者の食事指導の要点 	
【評価方法】 レポート 実習レポート	

【授業科目名】 介護概論	【担当者】 関谷栄子
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 高齢者や障害者の生活の維持向上を図り、快適な生活を過ごすことができるように直接的なケアについての理論と方法を学ぶ 1 介護を要する人々の生活を理解する 2 介護の目的、目標、原則、機能、範囲及び専門性、提供の場等について理解する 3 看護・医療・保健・家政など隣接領域、及び家族や地域社会との協力の方法を学ぶ	
【テキスト・参考書】 <p style="text-align: center;">検討中</p>	
授 業 計 画	
1 介護の目的、目標、原則、機能、範囲及び専門性、提供の場 2 高齢者、障害者の生活を理解する、自立生活を営むためのニーズと介護の役割 3 健康維持のメカニズム、障害や疾病時のケア、終末ケアについて理解する 4 介護の原則 安全、安楽、日常生活行動の改善、残存機能の維持、Quality of Life 5 介護の技法 (1) 健康や生活の観察技術 (2) 生活行動の援助技術 呼吸確保、食、排泄、清潔、衣類や寝具の整備、住環境の整備、運動や移動睡眠、有害環境からの保護、コミュニケーション、職業、教育、宗教レクリエーション、社会参加 (3) 特殊場面における介護技術 医療、看護対応時の介護 与薬、感染予防、救急、事故対応、終末期ケア 6 介護提供の場 長期利用施設の介護、短期利用施設の介護、在宅ケア 7 介護関係の維持のための技法 関係職種、隣接領域との協力関係、連携の在り方 記録、事例検討 8 家族や利用者自身に対する介護指導 9 介護職種の安全、健康管理 講義の他に適宜施設見学、学外見学研修を実施する	
【評価方法】 <p style="text-align: center;">テスト及びレポート</p>	

【授業科目名】 介護技術	【担当者】 関谷栄子
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 1 介護の基本的技術（法）を習得しその原理を理解する 2 介護に適した各種福祉機器ならびに住設備機器について適正な使用のありかたを学ぶ 3 技術を用いる過程の展開のあり方を学ぶ	
【テキスト・参考書】 検討中	
授 業 計 画	
<p>介護概論の講義と平行して介護技術の実習や演習形式を多く取り入れる</p> <p>1 介護の目的と原則</p> <p>2 介護の過程 介護ニーズ、介護計画、実施、評価、介護の記録</p> <p>3 基本的な介護技術 (1) 基本的なマナー (2) 健康生活の観察技法 (3) コミュニケーション</p> <p>2 生活行動援助技術 (1)住環境の整備 (2)移動 (3)体位交換 (4)衣服の着脱、 (5)食事 (6)排泄 (7)清潔 (8)整容</p> <p>3 特殊な場合の介護 (1)褥瘡予防 (2)救急・事故時の対応 (3)与薬 (4)異常の見分け方、 (5)痴呆性老人の介護</p> <p>4 記録、事例検討のすすめかた</p> <p>5 関係職種との協力の仕方 医師のかかりかた、看護婦との協力のしかた</p> <p>6 地域社会、家族との協力、連携のしかた</p>	
【評価方法】 テスト及び実技試験	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（聴覚障害）	【担当者】 貞廣 邦彦
【開講期】 前期	
【授業目標】 聴覚障害者の福祉の基本は、障害への理解とコミュニケーションの保障を確保することにあります。福祉についての理解を深め、手話の表現力を養いたい。	
【テキスト・参考書】 参考書：「わたしたちの手話（１）」全日本ろうあ連盟発行 // ：「手にことばを（初級用）」東京都聴覚障害者連盟発行	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">聴覚障害者への接し方、聴覚障害者とのコミュニケーションの方法などについての問題点を検討し、手話の社会的位置づけを理解するとともに、手話の表現技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ろう教育とコミュニケーション (2) 聴覚障害者の社会生活 (3) 手話の成り立ち (4) 指文字 (5) 手話の基礎的表現 (6) 手話の特徴 (7) 聴覚障害者との演習 (8) 手話日常会話 (9) 手話と文化 (10) コミュニケーションと情報 	
【評価方法】 授業への出席状況と筆記試験によって評価する。	

【授業科目名】 障害形態別介護技術(肢体不自由・内部障害)	【担当者】 関谷栄子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 1 障害者や老人の特性に応じた介護に関する知識を習得する</p> <p>2 障害者や老人の置かれた条件に対応した介護の知識・技術を習得する</p> <p>3 介護機器や各種の福祉機器・用具について理解し、その使用方法について学ぶ</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>内容 1. 老人や障害者の行動様式を理解し介護のあり方を学ぶ</p> <p>2. 家族形態別にみた障害者や老人の生活障害の所在と介護の技法について学ぶ</p> <p>3. 脳神経疾患、内部障害者、骨関節疾患、難病などの疾病による生活障害の所在を理解し介護の特徴を学ぶ</p> <p>4. 日常生活行動上の介護の技法を学ぶ</p> <p>5. 残存機能の活用の方法と介護の技法を学ぶ</p> <p>6. 実習によって介護の技法を学ぶ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価方法：テスト及びレポート</p>	

【授業科目名】障害形態別介護技術（視覚障害）	【担当者】直居 鉄															
【開講期】 後期																
<p>【授業目標】</p> <p>視覚障害といってもその程度、原因、障害発生時期および今後の進行予測など、個人によってそれぞれ固有な状態である。従って単に「目が悪くて見えない」というだけではなく、日常生活のあらゆる場面に複雑多様な影響がある。しかし、視覚障害による日常生活上の障害を大別すれば、運動機能に障害がないにもかかわらず、歩行・移動が困難であることと、文字や図表あるいは映像による情報の獲得や伝達が障害されるという二つになる。</p> <p>視覚障害に関する医学的知識と視覚障害者（児）の日常生活に関する情報を基礎として、介護技術としては、歩行・移動の介護と、コミュニケーションの介護技術として、点字の読み書き、普通文字の音訳（読み）と代筆の基本的な知識技能の習得を目的とする。</p>																
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>直居 鉄 「視覚障害者の介護技術」（YNT企画）</p> <p>点字の本編集委員会 「点字器付き 点字の本」（YNT企画）</p>																
授 業 計 画																
<table border="0"> <tr> <td style="text-align: right;">週</td> <td>教授内容</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">1.</td> <td>視覚障害と関連医学の基礎知識 目の構造と働き</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">2.</td> <td>視覚障害の原因となる病気 強度近視、白内障、糖尿病性網膜症、緑内障 網膜変性、ベーチエット病 未熟児網膜症、網膜芽細胞腫など</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">3.</td> <td>残存感覚機能の特性と活用 聴覚、触覚、嗅覚、味覚などの活用 いわゆる「かん」について</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">4.</td> <td>視覚障害者（児）の実態 視覚障害者数、視力の程度と身体障害者 福祉法による等級、 視覚障害者（児）の教育、職業の現状</td> </tr> </table>	週	教授内容	1.	視覚障害と関連医学の基礎知識 目の構造と働き	2.	視覚障害の原因となる病気 強度近視、白内障、糖尿病性網膜症、緑内障 網膜変性、ベーチエット病 未熟児網膜症、網膜芽細胞腫など	3.	残存感覚機能の特性と活用 聴覚、触覚、嗅覚、味覚などの活用 いわゆる「かん」について	4.	視覚障害者（児）の実態 視覚障害者数、視力の程度と身体障害者 福祉法による等級、 視覚障害者（児）の教育、職業の現状	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: right;">ねらい</td> </tr> <tr> <td>眼球の模型を使って目の構造と機能を理解させる。</td> </tr> <tr> <td>視覚障害の原因となる病気について平易に説明し、目の病気に対する関心を高め、注意を喚起する。</td> </tr> <tr> <td>視覚障害によって代償機能として聴覚や触覚が発達することを理解し、それが訓練と努力によることを理解させる。</td> </tr> <tr> <td>視覚障害者（児）の実態を示す図表や資料によって実態を理解し、教育と職業の現状を理解して援助・協力する心構えを養う。</td> </tr> </table>	ねらい	眼球の模型を使って目の構造と機能を理解させる。	視覚障害の原因となる病気について平易に説明し、目の病気に対する関心を高め、注意を喚起する。	視覚障害によって代償機能として聴覚や触覚が発達することを理解し、それが訓練と努力によることを理解させる。	視覚障害者（児）の実態を示す図表や資料によって実態を理解し、教育と職業の現状を理解して援助・協力する心構えを養う。
週	教授内容															
1.	視覚障害と関連医学の基礎知識 目の構造と働き															
2.	視覚障害の原因となる病気 強度近視、白内障、糖尿病性網膜症、緑内障 網膜変性、ベーチエット病 未熟児網膜症、網膜芽細胞腫など															
3.	残存感覚機能の特性と活用 聴覚、触覚、嗅覚、味覚などの活用 いわゆる「かん」について															
4.	視覚障害者（児）の実態 視覚障害者数、視力の程度と身体障害者 福祉法による等級、 視覚障害者（児）の教育、職業の現状															
ねらい																
眼球の模型を使って目の構造と機能を理解させる。																
視覚障害の原因となる病気について平易に説明し、目の病気に対する関心を高め、注意を喚起する。																
視覚障害によって代償機能として聴覚や触覚が発達することを理解し、それが訓練と努力によることを理解させる。																
視覚障害者（児）の実態を示す図表や資料によって実態を理解し、教育と職業の現状を理解して援助・協力する心構えを養う。																

授 業 計 画

- | | |
|--|---|
| 5. 視覚障害者（児）に対する福祉措置
補装具・日常生活用具
感覚代行機器の現状
国・地方における行政措置 | 国や地方自治体による福祉的措置
の中で介護福祉士の役割を理解させる。
物と共に人の心がこもる介護の
大切さを理解させる。 |
| 6. 視覚障害者に対する言葉づかい
視覚障害者に対する呼び方、挨拶の仕方
視覚障害者との会話 | 視覚障害者との会話について、特に
注意すべきことを理解させる。 |
| 7. 視覚障害者との歩き方の基礎知識
白い杖、手引きの基本的な姿勢 | 白い杖についての知識と、手引き
の仕方の基本を理解させる。 |
| 8. 視覚障害者の案内の仕方
買い物の仕方、会合への案内、会食
映画・演劇・美術館・博物館などの鑑賞 | 視覚障害者をいろいろな場所に
手引きをして案内する方法を実技
実習をして習得させる。 |
| 9. 各種の乗り物、トイレットや浴場などの利用 | |
| 10. 日常生活の介護
身辺の整理・整頓・清掃
日常生活の介護についての基礎知識 | 日常生活のリハビリテーション訓練
ではなく、介護としての心構えを
養う。 |
| 11. 情報障害の介護
日常生活に必要な文書の読み書き | 図書の点訳や朗読ではなく、生活上
必要な文書などの朗読・点訳代筆の
必要性とその基本的な留意事項を
理解させる。 |

*点字の指導内容は省略する。

【評価方法】

①定期試験期間中に、レポートを提出。

②レポートの評価と普段の授業態度及び点字の進度により評定する。

【授業科目名】 障害形態別介護技術（老人）	【担当者】 木下 安子
【開講期】 前期	
【授業目標】 老人介護の基本について理解し、老人の心に触れて介護する意義や方法を体得する。	
【テキスト・参考書】 特に指定しないが、課題に応じて文献、マスコミの報道資料等	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人に関する文献（単行本・雑誌）マスコミの報道（新聞・雑誌記事等）を各自の興味にしたがって探索する。 その探索結果の紹介と見解を発表し、討論する ——問題発見—— 2. 明らかになった老人介護に関する課題を整理し、分野別にグループに分かれ学習し、その結果を発表、討論する ——ワークショップ—— 3. 各自がこの過程で学んだ内容を整理し、次のテーマでレポートにまとめる。 ・老人をめぐる諸環境についての分析と、老人介護の課題とこれからの方向について論じる 	
【評価方法】 —— レポート作成 —— 評価についてはこの全過程を通じて行う	

【授業科目名】 実習指導	【担当者】 真保 雅子・後藤 礼子
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習を円滑にすすめるために必要な知識・技術を修得する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護の対象者、施設設備、施設職員についての全般的な理解 2) 記録のあり方（実習記録、個別処遇計画に向けて） 2. 個別処遇計画を立案・実践し、実践記録を発表する。 	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ①「実習指導」の授業形態について理解する ②「介護実習」の意義とすすめ方を知る 2. 実習施設についての学習 <ol style="list-style-type: none"> ①特別養護老人ホーム ②救護施設・身体障害者療護施設 3. I期実習オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ①I期実習で学ぶことを理解する ②I期実習目標を立てる 4. I期実習反省会 <ol style="list-style-type: none"> ①I期実習で学んだことを整理する ②II期実習に向けての課題づくり 5. II期実習オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ①II期実習で学ぶことを理解する ②実習記録の内容を深める ③II期実習目標を立てる ④II期実習目標を確認する ⑤夏期休業中の課題を確認する 	<p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. II期実習反省会 実習から学んだ介護職員・施設のあり方 2. III期実習オリエンテーション ① III期実習で学ぶことを理解する チームの一員としての介護とは 3. 個別処遇計画とは <ol style="list-style-type: none"> ①事例から学ぶ ②計画立案から実践までの流れを理解する ③モデルケースを使い計画を立ててみる 4. III期実習オリエンテーション ② III期実習の目標を確認する 5. 実践した個別処遇計画を振り返る <ol style="list-style-type: none"> ①記録の重要性について理解する ②自分の記録をもとに学ぶ ③個別処遇計画の実践記録を完成させる ④ケーススタディ発表会抄録を作成する 6. ケーススタディ発表会
【評価方法】 平常点、実習記録（ケースレポートを含む）	

【授業科目名】 介護実習	【担当者】 関谷 栄子・真保 雅子・後藤 礼子
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習を通して、介護の対象者・施設設備・施設職員についての理解を深める。 2. 学校で学んだ理論を応用し、介護技術を高める。 3. 介護福祉士としての介護観を養う。 	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 介護実習は、48日間をⅢ期に分けて行われる。</p> <p style="margin-left: 40px;">(予定)Ⅰ期；5/22(月)～6/3(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用者の住まい」としての施設を理解する。 ・利用者への処遇の実際を知る。 ・コミュニケーションが比較的とりやすい利用者とかかわり初歩的な日常生活援助を修得する。 <p style="margin-left: 40px;">Ⅱ期；9/4(月)～9/16(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の障害のレベルに応じて求められる介護技術を適切に用いる。 ・介護職以外の職員との協力体制を理解し、実践する。 ・お年寄りの生活を支えるさまざまなサービスを体験学習する。 <p style="margin-left: 40px;">Ⅲ期；11/13(月)～12/9(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用者のくらし」を支えるための知識・技術を高める。 ・「個別援助計画」を立案し、実践する。 ・自分の介護観の形成を目指す。 <p>特別養護老人ホーム1～2箇所、救護施設または身体障害者療護施設1箇所 で実習する。学校から提示された施設以外では実習できない(厚生省指定による)。</p> <p>2. 介護実習の前後に「実習指導」が週1～2時間あり、実習のすすめ方の詳細は「実習指導」で解説、学習する。</p>	
【評価方法】 平常点 実習施設からの評価 実習記録(ケースレポートを含む)	

【授業科目名】介護福祉特講（レクリエーションワーク）

【担当者】三木 和子

【開講期】前期

【授業目標】

介護サービスの現場において、レクリエーション援助の重要性は、ますます高まってきている。利用者の生活の中での楽しみ、喜び援助のために、どのような視点を持ちたいかが、基本的な援助技術を少しでも身につける努力を期待する。

【テキスト・参考書】

テキスト：「レクリエーション指導法」 中央法規出版

参考書：「福祉レクリエーション・実践マニュアル」

授 業 計 画

6回、という限られた授業回数の中で、本来「レクリエーションワーク」の授業に不可欠な演習の時間が、1回しか予定できないが、講義と主として時間を充てるべく演習的な内容を盛り込んで、中身の授業内容にして打ちたい。全出席を心掛けて欲しい。

1. 余暇社会とレクリエーション
2. 福祉分野におけるレクリエーションの捉え方
3. レクリエーション援助の方法（援助技術その1.）
4. レクリエーション計画
5. 演習（レクリエーション援助技術 その2.）
6. レクリエーション・ワーク-に求められること

【評価方法】

筆記試験の成績と出席点を考慮する。

【授業科目名】 介護福祉特講（老年医学）	【担当者】 大倉 透
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>老年医学の、概要を述べる。介護に当たっての、注意事項や、どのようにすれば、高齢者にとって、快適な介護が出来るか、危険を防止できるか、実際に即した介護法を、理解できるようにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p style="text-align: center;">テキスト：大倉 透：ボケの予防・治療・介護（創芸社）</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストを中心に、以下の項目にしたがって、講義する。老人介護に必要な病気の知識、病気の成立について。簡単な診断法、治療法、さらに、予防法およびリハビリテーションまでを、述べる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総論 <ol style="list-style-type: none"> A 老化（加齢）現象とは B 病気の分類 C 老人病とは 2 各論 <ol style="list-style-type: none"> A 脳血管障害 B 心疾患 C ガン D 痴呆 E 骨折と骨粗鬆症 F 関節リウマチと関節疾患 G 呼吸器疾患 H 消化器疾患 I 泌尿器疾患 J その他 3 死の判定 4 救急処置 5 老人の在宅ケア・地域ケア 6 老人と栄養 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">筆記試験</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期 ・ 後期	
<p data-bbox="137 327 286 360">【授業目標】</p> <p data-bbox="181 398 1188 432">福祉にかかわって問題とされることがらを各自選び、その課題解明を試みる。</p>	
<p data-bbox="137 551 404 584">【テキスト・参考書】</p> <p data-bbox="181 618 519 651">各担当教員の指示による。</p>	
<p data-bbox="620 730 911 763">授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="158 880 1216 913">1. 4月入学後、オリエンテーションを受けた後、学生各自がテーマを決める。 <li data-bbox="158 954 1216 987">2. テーマによって担当教員を決定（教員1人当たり5～10名の学生が配属）。 <li data-bbox="158 1028 890 1061">3. 担当教員の指導を受けながら研究作業をすすめる。 <li data-bbox="158 1102 804 1135">4. 11月に予定の修研中間発表会で報告する。 <li data-bbox="158 1176 487 1209">5. 1月修研提出する。 <li data-bbox="158 1249 746 1283">6. 2月修研発表会で研究成果を報告する。 	
<p data-bbox="137 1917 286 1951">【評価方法】</p> <p data-bbox="326 1955 863 1989">各自提出の修研（論文）により評価する。</p>	

【授業科目名】 社会福祉制度 政策論

【担当者】都留 民子

【開講期】 前期

【授業目標】

社会福祉の政策と制度を学ぶ重要性を理解させる。そのなかで、社会福祉制度・政策の独自の性格と役割を、関連領域（特に雇用、労働政策）との絡みで把握。

【テキスト・参考書】

「厚生指標（臨時増刊号）
国民の福祉の動向 1994年版」（厚生統計協会）

授 業 計 画

わが国の社会福祉の制度と政策をイギリスとフランスの社会福祉の比較でまず捉らえて、その特徴を明らかにしていく。次に今日のわが国の国民の生活実態に基づき、制度の有効性と問題点を学習していく。ただし、社会福祉とは広い概念であること＝生活問題対策として理解をすすめていく。したがって社会福祉諸サービスにとどまらず、年金、諸手当、医療保障なども含む。わが国の分野別の制度・政策については学生の自主的な学習に基づく準演習方式で行う。

- 1部 社会福祉のアドミニストレーション
 - 1章 イギリスとフランスの事例
 - 1節 イギリスのソーシャル・ポリシー
 - 2節 フランスのプロテクション・ソーシャル
 - 2章 日本の社会福祉政策・制度・行政
 - 1節 戦前の社会政策と社会事業
 - 2節 戦後の社会保障と社会福祉
- 2部 日本の社会福祉の諸制度と体系
 - 1章 社会保障と社会福祉の法体系
 - 1節 社会福祉諸法における公的責任
 - 2節 所得保障諸制度
年金、公的扶助—生活保護制度、社会手当
 - 2章 社会福祉の各分野の特徴
 - 1節 「家族政策」と社会福祉
児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当
児童福祉と母子福祉
 - 2節 障害者福祉政策・制度
 - 3節 高齢者福祉政策・制度
 - 4節 今日の生活問題と貧困
最低限生活保障
 - 3章 社会福祉政策・制度とソーシャルワーク

【評価方法】

学年末レポート

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 後期前半	
<p>【授業目標】</p> <p>児童福祉、障害者福祉、老人福祉、公的扶助などを巡る諸制度、諸政策の歴史の変遷と現在そしてこれからどう変化していこうとしているかを、住民（児童、障害者、老人その他一般住民）の生活との関連で概括します。そして、制度政策を考える視点を生存権保障に置き、憲法、社会福祉諸法、各種憲章、権利条約等をおとして自ら築き上げられるよう、グループディスカッションを多く取り入れ学びます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業開始時に示します。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦前（戦中）の制度・政策 2. 戦後に組み立てられた社会福祉制度・政策とその時代的背景 3. 現在の社会福祉制度・政策とそこに至る経過 4. これからの社会福祉制度・政策の方向 5. 社会福祉制度・政策はどうあったらよいかを考察する 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容をヒントとしたレポートの提出を数回求めます。出席は重視します。その総合点で評価したいと思います。</p>	

【授業科目名】 障害福祉論	【担当者】 尾島 豊
【開講期】 後期	
【授業目標】 障害者問題の特質とその背景、障害の概念、障害者福祉に関わる法律や制度の概要など、専門援助者として関わる上での基本的な考え方と知識を学び、また現代の障害者問題に対する問題意識を深め、またノーマリゼーション論の理解を深めることを目的とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：手塚直樹・加藤博臣編 『障害者福祉論』ミネルヴァ書房 参考書： 江草安彦『ノーマリゼーションへの道』全社協 砂原茂一著『リハビリテーション』岩波新書	
授 業 計 画	
<p>前半は、障害者福祉に関する制度の概要の紹介が中心となる。身体障害者、知的障害者に対する福祉制度、関連する制度の概要を理解することが目的となる。後半は、現状の障害者問題に対する知識と考え方を深めることを目的とする。福祉の領域におけるノーマリゼーション論を、広く社会の動きとの関連の中で捉え、現代において広く問題となっている慢性疾病と障害者問題、高齢化と障害者問題、教育における障害児の統合教育などがテーマとなる。</p> <p>序 オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念について 2 障害者福祉の法律と制度 3 障害者問題を考える視点 	
【評価方法】 講義の内容の理解を中心にした筆記試験	

【授業科目名】 家族福祉論	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 後期	
【授業目標】 ① 家族福祉の基本的枠組み、諸理論を学ぶ ② 各分野の家族福祉の具体的課題を深める ③ わが国における家族福祉の動向について学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで紹介する	
授 業 計 画	
(1) 家族福祉論で考えたいこと (2) 「女らしさ」「男らしさ」からの解放 (3) いま世界と日本の家族に何が起きているのか (4) 家族福祉の視点とは何か－家族福祉の概念 (5) 高齢者問題からみた家族福祉－福祉サービスの内容 (6) 障害児問題からみた家族福祉－スティグマ観の検討 (7) 精神障害者問題からみた家族福祉 (8) 学習目標 福祉制度改革はどうすすめられるべきか (9) 学習目標 介護の担い手は女性が適しているか否か (10) 地域問題からみた家族福祉 (11) 援助方法からみた家族問題 (12) 家族政策からみた家族問題 (13) 現代の社会福祉政策動向と家族福祉の展望	
【評価方法】 ① レポート提出 ② 授業への出席状況	

【授業科目】	社会福祉調査法	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	専攻科共通 後期前半		
【授業目標】	<p>社会福祉調査は、社会調査の一種であり、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住民（児童、障害者、老人および住民全般）の生活実態と、改善、解決を求められる福祉課題・生活課題等を明らかにし、社会福祉制度、サービスに結びつけていく 2. 各種社会福祉サービスの効果測定や分析を行うことを主な目的としています。 <p>本講では、まず、既に公にされている調査報告書を解読し、生活課題、福祉課題を明確にする作業から、社会福祉調査の大切さを学び、その技法についても論究していきたいと思えます。</p>		
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 育児・子育て、保育調査、高齢者・障害者の生活実態調査報告書を読み、グループディスカッションをとおして福祉課題、生活課題を探る。 2. 調査結果から明らかになった福祉ニーズとの関係で既存の福祉サービスを検証する 3. 調査法について学び、グループ毎に分野ごとに調査項目を立て、実際に簡単な調査実習を試み、結果を分析する 			
【評価】	<p>学年末試験と日常のレポートを総合して評価します。 出席は重視します。</p>		

【授業科目名】 社会福祉援助方法論	【担当者】 尾島 豊
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉に固有な方法としてのソーシャルワーク実践の専門性（価値・知識・技術）のあり方を学ぶ。職業としての社会福祉援助の意味、援助関係の形成と援助過程を展開する上で必要な基礎的な概念を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武井・春見・深澤共著『ケースワーク・グループワーク』光生館 参考書：モフェット著『ケースワーク入門』川島書店 バイステック著『ケースワークの原則』誠信書房</p>	
授 業 計 画	
<p>この講義では、保育・介護福祉の職業に就く者として必要な社会福祉の方法論の基礎を改めて学ぶ。保育にも介護福祉にも共通する対人援助活動における基本的な考え方に関するテーマが中心となる。どのように現場で学校や書物で得た知識を活用し、社会的価値を実現させていくか、あるいは専門的な援助を通じて自らも成長できるという意味で、対人援助という職業を見直すきっかけになればと思う。</p> <p>序 オリエンテーション</p> <p>1 社会福祉における方法・技術　－対人援助活動の基礎－</p> <p>2 社会福祉の目標と価値</p> <p>3 社会福祉の専門性</p> <p>4 ソーシャルケースワークの基礎</p> <p>5 事例研究－ニーズの把握・情報収集の方法と援助過程の展開－</p> <p>6 ソーシャルワーク論の歴史と理論</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の内容の理解を中心にした筆記試験</p>	

【授業科目】	社会福祉特別演習	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	専攻科共通 前期		
【授業目標】	<p>1年間、社会福祉を学ぶ上で最小限必要な知識と考え方を学ぶことを目的とします。</p> <p>同時に「社会福祉実習」の事前準備及び事後の整理に結びつくよう心がけます。</p> <p>実習で 何を、どう学び、今後の仕事・研究にどう発展させていくかを各人が自ら考えていく力を付けることを目標に進めたいと思います。さらには、後期の「社会福祉制度政策論」の授業に結びつけられるよう考えていきたいと思っています。</p>		
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 住民の暮らしと社会福祉 2. 社会福祉の各分野別にみる制度・サービス 3. 社会福祉援助実践とはどうあったらよいか 4. 社会福祉実習で何をどう学ぶか 5. 社会福祉実習に臨むにあたっての事前学習 6. 社会福祉実習から何をどう学び、どう発展させていったらよいか、自らの課題を探る 			
【評価】	<p>レポート（授業に関するもの及び実習準備・実習まとめレポート）、出席は重視します。</p> <p>その総合点で評価したいと思っています。</p>		

【授業科目】 社会福祉実習	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この実習は「社会福祉主事任用資格」取得希望者を対象に福祉事務所や児童相談所などの社会福祉専門行政機関、老人ホームや精神薄弱者援護施設などの社会福祉施設（原則として児童福祉施設を除く）で行うものとします。実習をとおして、施設利用者の生活実態と機関・施設の役割を理解し、考える力をつくと共に、援助技術について学ぶ。</p>	
授 業 計 画	
<p>配属実習は7月下旬から8月上旬にかけての12日間を標準として実施する。実習の事前・事後指導は、「社会福祉特別演習」の時間に実施する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習機関からの評価を基礎に、授業への積極的参加度、実習への取り組み方、実習のまとめ等を総合的に判断する。</p>	

学籍番号・

氏名・
